

障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業 導入状況

基本情報	導入年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
	法人名	(福)ゆたか福祉会	(福)大幸福社会	(福)新生会	(福)大幸福社会	(特非)Hands
	施設・事業所名	ゆたか希望の家	ユニオンワークスー色 ハウス	あしたの丘	ユニオンワークスー色 ハウス	藤里
導入に当た たっての 情報	介護ロボット等の種別	移乗介護	見守り・コミュニケー ション	見守り・コミュニケー ション	見守り・コミュニケー ション	移乗介護
	介護ロボット等の製品名	移乗ロボット Hag T1	眠リスキャン	眠リスキャン	眠リスキャン	マッスルスーツ Exo- Power
	購入又はリース・レンタルの別	購入	購入	購入	購入	購入
	リース・レンタルの場合の契約 期間	-	-	-	-	-
	導入機器 1 台当たりの金額	860, 000円	121, 000円	119, 900円	121, 000円	214, 280円
	導入台数	1台	12台	17台	10台	4台
	セットアップ費用	なし	34, 320円	なし	28, 600円	なし
事業に関 する情報	介護ロボット等の使用状況 (使用する業務・使用頻度等)	車いす⇄ベッド・トイレ等の移乗に使用。 起床、就寝介助 2回/ 日 トイレ介助 5回/日	利用者の就寝時に体 調、情緒の変化などを 数値化して的確に把握 毎日、就寝時～起床ま で使用	・3月下旬、眠リス キャンを活用した業務 の効率化に向けた職員 間の業務内容の検討。 ・睡眠、呼吸状態、体 動等の把握が必要な慢 性腎不全の利用者を中 心に使用対象者を選 定。その他、必要に応 じて、コロナ等の感染 症等により静養中の利 用者の身体状況の把握 に使用予定。 ・4/14、設置台数の増 加（5台⇒22台）のた め、メーカーによる ネットワークの設定・ 調整。	利用者の就寝時に体 調、情緒の変化などを 数値化して的確に把握 毎日、就寝時～起床ま で使用	重度の利用者様の移乗 介助 重度の利用者様の入浴 介助
	介護ロボット等の導入効果 (導入による業務改善状況等)	介助職員の腰痛軽減な ど身体的負担の軽減 や、二人介助が必要 だった利用者が1名で の介助になり、負担軽 減と時間削減につな がった。また、利用者 が自分の足で踏ん張る ことで、心身機能の低 下が防げる。	就寝時巡回業務時間の 短縮になり、体調不良 の際、医師に普段の様 子（バイタル、睡眠状 況など）を的確に伝え ることが可能となっ た。また利用者は、巡 回時に睡眠を妨げられ ることが無く熟睡出来 ている。	・一定エリアの眠リス キャン導入により、モ ニター画面による安否 確認により、過度な訪 室業務を減少させ、職 員の身体的、精神的負 担の軽減に繋げる。 ・利用者の睡眠、呼吸 状態を適宜把握するこ とにより、利用者の転 倒事故等を未然に防 ぐ。 ・職員の訪室による利 用者の睡眠を妨げる回 数の減少を目指す。	就寝時巡回時間の短縮 になり、体調不良の際 に医師に普段の様子（ バイタル、睡眠状況な ど）を的確に伝えるこ とが可能となった。ま た利用者は、巡回時に 睡眠を妨げられること が無く熟睡出来ている ため、起床時の介助な どがにスムーズに行え る。また日中の活動中 に昼寝の必要性が少な いと報告を受けてい る。	車椅子への移乗は腰へ の負担軽減あるが。一 つの動作の介助の継続 ならば使用は可能だが 長時間は厳しい。
	介護ロボット等の導入の課題	介護ロボット導入に当 たり、使用する利用者 の丁寧なアセスメント が必要。また、介護ロ ボットに関する情報が 少ないので、比較検討 する余地が少ない事が 課題と考える。	ベットに敷いて検知す る機器であるが故の特 性で、体格によって検 知の精度の差があるよ うである。位置や検知 の感度などこまめに修 正し非常勤職員を含め た全員が機器の特性や 活用などに注視してゆ く必要がある。		ベットに敷いて検知す る機器であるが故の特 性で、位置や検知の感 度などこまめに修正し 非常勤職員を含めた全 員が機器の特性や活用 などに注視してゆく必 要があり、ある程度 データをとったうえで 個別の行動状況を推測 してゆく必要がある。 不必要な巡回により睡 眠の妨げになることも ある。	①ロボットの装着にベ ルトを締めたり空気を 入れるのに時間がか かる。慣れが必要。 ②大きな施設で同じ作 業の継続ならば可能と 思われますが、狭いト イレ介助や入浴介助で は小回りができない。 ③職員一人一人の体系 なども違いがあり装着 時に一人でベルトを絞 め直すことに時間がか かる。